

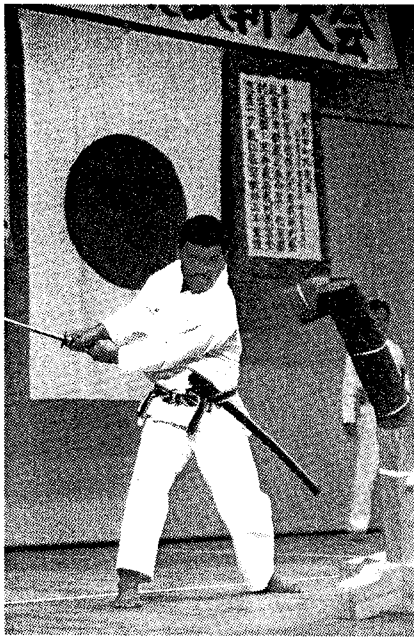
アメリカで出版された「抜刀術」

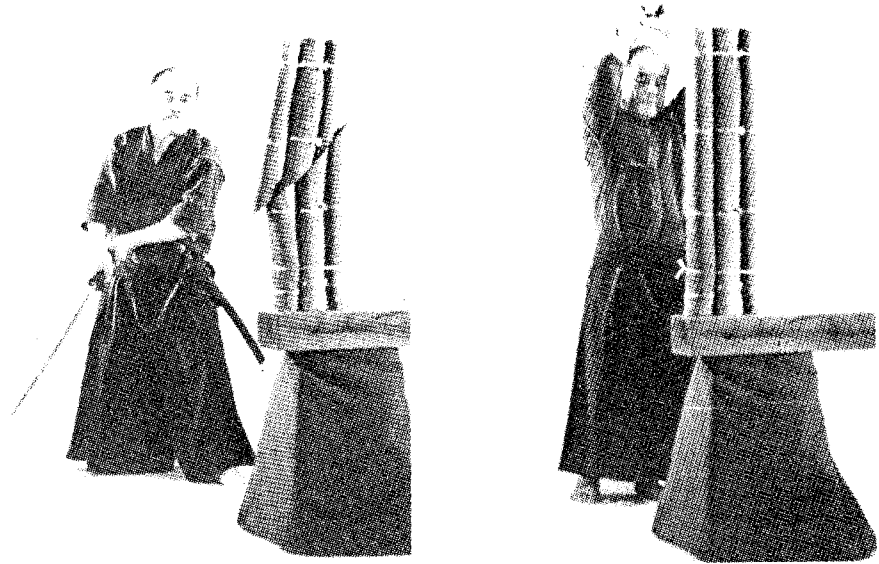
全日本抜刀道連盟の会員である小幡剣士が「抜刀術」を英訳出版、アメリカ全土で大好評を得ていると報告が来た。過日その本が二冊送られて来た。

並行して筆者の新著「抜刀道」も刊行され、今後の抜刀道普及発展のため同慶の至りである。

小幡剣士は十年ほど前、当連盟芸能支部若駒剣友会々長林邦史朗先生の門下生として第二、三回全日本抜刀道試し斬り大会に於て個人の部で連続二回優勝に輝いている。

その後、日本武道の普及発展に大望を抱きアメリカのロスアンゼルスに渡り、総合武道場を設立。特





に中村流八方斬り、ならびに戸山流抜刀道の看板を上げて日本武道の普及に専念。今日の大成を成し遂げたことは、満腔の敬意を表する。

今後共、一層の努力を励み、日本武道精神の高揚のため精励されることを願ってやまない。

日本刀は世界でも類例のない美術工芸品であり、同時に「斬る武器」である。斬れない日本刀では国際舞台で日本の恥になる。

日本刀は日本人にとって魂であり霊器である。人を切らず人に切られずの「活人剣」が教えの基である。愛刀の礼を常に念頭に、危険予防に万全を期し百錬自得をモットーに国際的にも恥ずかしからぬよう、精励あらんことを祈ってやまない。